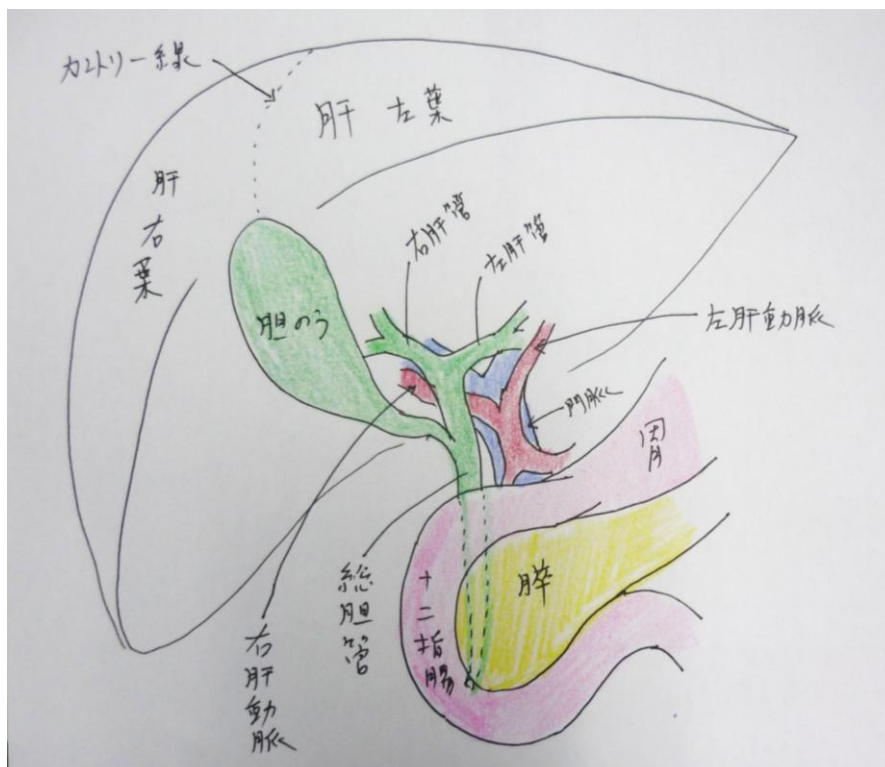


胆道癌(胆管癌、胆嚢癌、ファーター乳頭部癌)

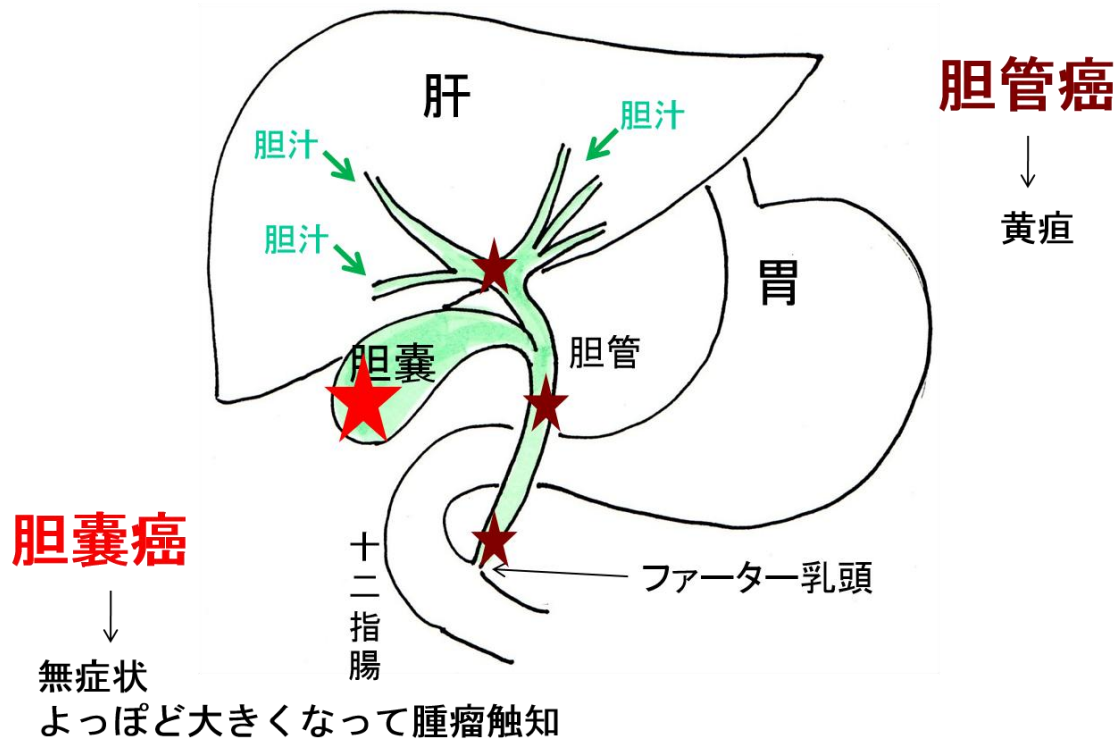
肝臓癌や膵臓癌ほど数は多くない疾患ですが、癌の広がりが複雑な場合が多く、治癒のための手術には肝切除と膵切除の両者の技術を要します。この領域の手術は、複雑性が高く、特殊な技術を要するため、専門施設である当院外科では特に力を入れて取り組んでおり、他施設に比べ合併症が少ないことが特徴です。当院での手術は2013年の日本肝胆膵外科学会のミニシンポジウム、2015年の日本肝胆膵外科学会の国際シンポジウムでも取り上げられ高く評価されています。2010年から2015年における胆道癌手術は100例以上で、近畿圏でも有数の経験症例数です。特に胆道再建を要する肝門部胆管癌手術には高度の専門的知識と技量が要求され、この手術の特殊性を十分に理解したうえで行うことが重要です。当院ではその技術によって高難度手術を安全に施行しており、2010年以降の当院における肝門部胆管癌切除後の累積5年生存率は57%であり、他の主要な施設からの報告と比較しても極めて良好な成績です。

この領域の手術は1000例以上の肝切除手術と450例以上の膵切除手術経験を有する日本肝胆膵外科学会高度技能指導医が主に手術を担当しており、多くの患者さんが当院に紹介されて癌の根治のための手術を受けられています。当院は日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設のA施設に認定されています。

胆嚢胆管の構造



胆道癌の主症状



最近の当院外科からの学会報告の一部：

日本肝胆膵外科学会（2011年6月、東京）のミニシンポジウム：肝胆膵外科領域で習得すべき血行再建手技「肝門部胆管癌に対する左側肝切除における肝動脈合併切除再建時の工夫」高 濟峯、他

日本肝胆膵外科学会（2013年6月、宇都宮）要望演題：「肝動脈門脈浸潤ならびに膵内胆管進展を伴う肝門部胆管癌に対する肝切除術式の選択」高 濟峯、他

日本肝胆膵外科学会（2013年6月、宇都宮）ミニシンポジウム：「肝門部胆管癌に対する切除術式の選択と手術手技」高 濟峯、他

日本肝胆膵外科学会（2014年6月和歌山）：「肝門部胆管癌／胆嚢癌に対する肝膵同時切除における手術手技の工夫と周術期成績」高 濟峯、他

日本肝胆膵外科学会 (2015 年 6 月東京) : シンポジウム「A limited role of laparoscopic procedure in resection for perihilar cholangiocarcinoma」